

# 第 32 回 放送番組審議会議事録

2023 年 3 月

株式会社シーエス・ワンテン  
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 2023 年 3 月

2. 開催場所 書面開催

3. 委員の参加

委員総数 8 名 参加 8 名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	(慶応義塾大学 名誉教授)
委員	黒鉄 ヒロシ	(漫画家)
委員	高木 美也子	(東京通信大学 人間福祉学部教授)
委員	戸張 捷	(株式会社ランダムアソシエイツ 代表取締役)
委員	藤田 興彦	(児童育成協会 参事)
委員	前田 純弘	(昭和女子大学現代ビジネス研究所 特別研究員)
委員	元村 直樹	(明治大学法学部兼任講師)
委員	四本 裕子	(東京大学大学院 総合文化研究科教授)

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長

福田 泉

業務推進本部長

渡辺 慎一

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局次長兼総合編成部長

奥川 晃弘

コンテンツ編成局総合編成部サテライトメディア担当部長

吉川 大祐

コンテンツ編成局総合編成部

村山 良太

コンテンツ編成局総合編成部

新谷 拓也

ビジネスプロデュース局 CS 事業部長

松久 智治

ビジネスプロデュース局 CS 事業部 CS 編成担当部長

中口 裕丈

株式会社文化工房

企画制作部

長田 誠

4. 議 題

「テレ朝チャンネル 1」、「テレ朝チャンネル 2」の番組について

## ◆テレ朝チャンネル1番組審議

### 『C&K 15周年目 執念の軌跡

～駆け抜けてきた歴史に迫る特番！！頼む全員視聴！！～』

#### <番組概要・企画意図>

この番組は、九州地方で絶大な知名度を誇る、CLIEVY（クリビー）さん・KEEN（キーン）さんの2人からなる男性2人組シンガーソングライター「C&K」が、結成15周年目を迎えることを記念して放送した特番です。本特番の翌週にはCSテレ朝チャンネルにて、C&Kライブの独占生中継も控えていたので事前盛り上げとしても放送しました。

本番組は、結成15周年という“歴史を振り返る”ことをテーマに「C&K自身」と、「C&Kと関係性が深い関係者による証言」を軸に構成されています。C&Kの歴史を証言する関係者は、舞台監督・テレビプロデューサー・裏方の技術スタッフなど総勢9人が登場し、C&Kの“これまでの歩みを「本人たちの視点」だけでなく、「関係者の視点」も交えて様々な事例を紹介することで、15年の歴史を出来るだけ具体的にイメージしてもらえる番組作りを目指しました。初めて明かされる2人の秘話、音楽に対する姿勢など、これまであまり語られることがなかったC&Kの素顔が垣間見える貴重な内容になっています。

CS放送の特性上、C&Kのことが好きなファンに向けて、ファンが喜んでくれることを最優先に番組を制作しています。その狙いがコアファンにも届いたのか、期待を超えるスカパー！の新規加入を獲得することが出来ました。

#### <委員意見>

- 大学で出会った2人がメジャーになっていく、それに関わる人達の思いが伝わってくる。
- 結成以来15年続いている人気の秘訣を知ることができた。
- アーティストを発掘してメジャーにするためにどれだけの手間がかかっているかが容易に想像できた。
- 利害関係のない専門家の評価があるとなお良かったのではないだろうか。
- 舞台裏の人間性も含めて二人を描き、ファンの期待に応えた番組になっていると思う。
- 二人のよりプライベートな部分を掘り下げ、人と為りが分かるような内容にしたらどうか。
- 実際のライブ中継を見てもようと思わせる内容だった。

#### <番組担当者から>

この度は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

委員の皆様に通じていたのは、C&Kというアーティストを知っている方がいらっしゃるなかつた点だと思います。そのような状況のなか、番組をご覧になって頂いたことで「熱量を持ったグループがいることが示されている」、「実際のライブ中継を見てもようと思わせる内容」などのお言葉は、彼らの結成15周年という“歴史を振り返る”ことをテーマにした特番を通して、C&Kへの興味をほんの少しでも持って頂けたのではと思うと、とても嬉しい気持ちになりました。

一方で、あまり有名ではないが故に、よりC&Kのプライベートな部分を掘り下げて人と為りが分かるような内容にしたらどうかというご提案や、彼らの歴史を見てきたファン目線の証言があった方が良かったのではないかというご指摘は、“歴史の振り返り方”として、とても気付きになりました。

今後もCS放送においては、全国的な知名度が高くないものの、コアファンがついていて、ファンが喜んでくれることを最優先にした番組制作をすることがあると思うので、委員の皆様から

頂戴した貴重なご意見を、次回の番組企画・制作・編成の参考にさせて頂きたいと思っております。

#### ◆テレ朝チャンネル2 番組審議

##### 『ロコ・ソラーレ世界一を目指して…』

#### <番組概要・企画意図>

2022年北京冬季五輪、日本国中の注目を集めたカーリング女子日本代表ロコ・ソラーレ。そもそも彼女たちはどんな目標に向かっているのか？その本質を探るべく企画提案しました。メインは五輪後に行われたトップツアードスラムに完全密着し、そこに過去15年にも渡るカーリング取材を組み合わせ、彼女たちの目標と支えを描く番組に作り上げました。

グランドスラムは年6大会カナダで行われる、超トップ大会。チーム世界ランク16位までが参加でき、超トップテクニックでしのぎを削ります。ロコはコンスタントに出場するようになって8年。いつしかこの舞台が五輪や世界選手権のメダル同等orそれ以上の価値を持つようになりました。

しかしこの大会、日本では取り上げられることがなかったため、五輪直後にあったプレイヤーズ選手権の中継権を獲得。現地でも取材体制を整え、ロコ・ソラーレの知られざる激戦の舞台に完全密着しました。普段とは違うユニフォームを身にまといつつ、これまで紹介できなかったチームコミュニケーションの取り方や戦いの進め方などを至近距離で撮影。真剣さやリラックスする様子などもしっかりととらえることができました。

そして番組のもう一つの柱が、歴史検証ドキュメントです。ロコ・ソラーレを生んだ北海道北見市常呂町は、人口3500人ほどの過疎の町。なぜここでカーリングが盛んになったのか？なぜメダル獲得できるトップ選手が生まれたのか？それを43年前、町の名物おじさんによってカーリングが持ち込まれてから現在に至るまでの歴史発掘ドキュメントで紐解いていきました。その歴史には、町ならではの温かさがあり、そして経済基盤の弱さがありました。これまで多くのトップ選手が競技継続を断念したり外の町でカーリングを続けるしかなかった時代、創設者本橋麻里は恩師の名物おじさんの教えを胸に、道なき道を進み、ロコ・ソラーレを作り上げました。「カーリングは楽しいぞ」…その歩みは、それを教えてくれるものでした。

#### <委員意見>

- 常呂町のカーリングの歴史を加えた編集は番組に厚みを加え、2時間の長さも気にならなかった。
- グランドスラムは、究極の勝負の世界であり、チームにとって重要な目標であることが良く理解できた。
- 試合の記録にとどまらず、常呂町でカーリングが根付いていった経緯を丁寧に描いた構成が良かった。
- テレビ朝日が先導して五輪や世界選手権以外の大会に注目したのは、意義があると思った。
- 今回、果たして本質まで迫ったのかどうか。ここまでに到達するにはもう一歩背景があるのではないか。
- 綿密な取材に過去の映像を組み合わせ、実にいい番組となった。

#### <番組担当者から>

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

そもそもこの番組は、ロコ・ソラーレがどれほどグランドスラムを大事にしている、日本で

は決して見られない戦いをしているかを紹介したいというところから企画をスタートさせました。実際に現場では「この時が来るのを夢見ていた」「よくぞ来てくれた」と、国内大会や五輪では明かさなようなことを毎日のようにしてくれました。グランドスラムで専用の宇宙イメージの試合ウェアのロコメンバーは、国内の大会や五輪とはまた違ったモードで厳しさと立ち向かい、それを嬉々として吸収してっていました。このツアーがあるから、ロコ・ソラーレは伸び続けられるのか…と強く感じさせられました。取材に入った大会ではベスト8で負けてしまいましたが、別の顔が伝えたかった点ではある種の到達点だったかもしれません。

そして本番組、ロコ・ソラーレの源流をたどるコーナーも制作しました。これまでもロコ・ソラーレの結成秘話を扱う番組は何度も作ってまいりまして、CS特番としても2020年に一度近い形のアプローチで制作していました。

そこにもう一度踏み込んだのは、ロコ・ソラーレを生んだ常呂町のカーリングの歴史を調べる機会を得たからでした。小栗祐治さんとはどんな人だったのか？この町でどうカーリングが根付いたのか？そして出身選手はどんな思いで常呂の看板を守ってきたのか？を、調べ上げることができました。実はテレビ朝日は私の前任者からしっかりカーリングを取材してきた経緯もあり、ロコ前夜を形にできるのではないかと感じ、企画化しました。これまで何度か作ってきたロコ・ソラーレの歴史ですが、また違うアプローチができたのでは？と思います。

余談ですが、今年1月に常呂町で行われた日本選手権に取材に行き、そこで今回の登場人物、町の現長老の藤吉忍さんから連絡を受けました。「いまいい時期だから、どうしても見せたくてさ」と連れられて行った先は、カーリングホール裏にある屋外スケート場。実はここ、小栗祐治さんが生前、仲間とともに氷を整備して作り上げた最初の屋外カーリングリンクでした。氷点下10度以下のここで夜な夜な水を撒き、作り上げていたのです。そこに私はまた歴史を感じ、町の人たちの情熱を感じました。カーリングは人と人を結ぶスポーツだということ、改めて実感した瞬間でもありました。

日本のカーリングは、40年ほどの歴史ですが、実はまだまだ知らないこともたくさんあります。調べるごとの発見です。皆様からのご感想やご指摘をいただきまして、制作側の思いが少しでも伝えられたこと、そして伝え方や作業が甘かったことを強く感じました。

私自身、カーリングの面白さをもっと伝えていく野望を持っており、今後に役立たせていければと思います。ありがとうございました。

#### 5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた2023年3月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

#### 6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2023年4月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

#### 7. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は2023年9月に開催予定。

以上